



一社) 研究基盤協議会

- 概要 -

一般社団法人 研究基盤協議会 理事・副会長
岡 征子

研究基盤協議会設立の背景

日本の研究力の向上が喫緊の課題となる中、その原動力となる「研究基盤」の重要性が議論されてきた。

文部科学省の審議会においては、「我が国が引き続き科学技術先進国たりえるためには、基盤的及び先端的研究施設・設備・機器の持続的な整備と、これらの運営の要としての専門性を有する人材の持続的な確保・資質向上が不可欠」と指摘。

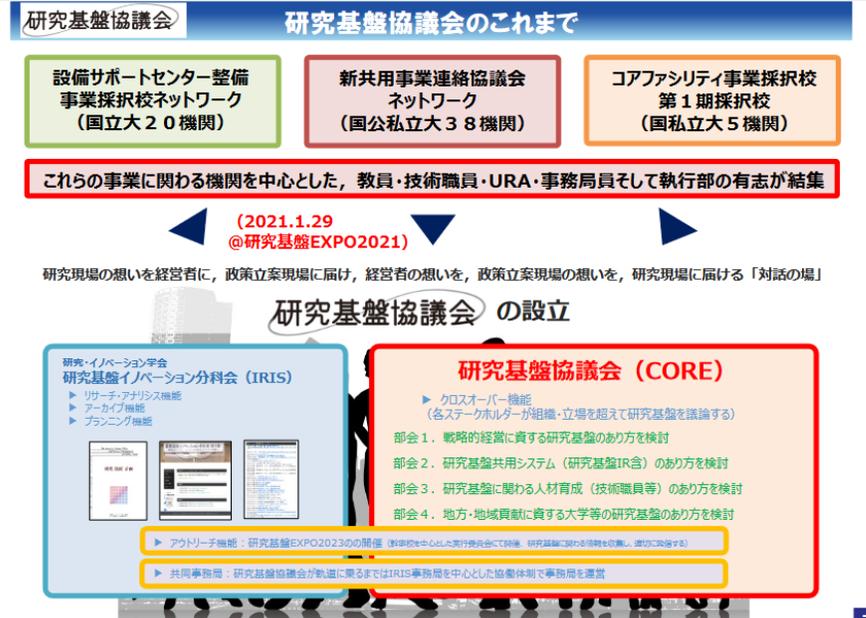
内閣府において議論されてきた「地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージ」においても、全学的な国際水準の研究環境（専門人材配置、機器共用体制等）構築支援の必要性に言及。

任意団体 研究基盤協議会（令和3年1月29日設立）

文部科学省の研究基盤共用に関する事業採択大学の有志を中心として国公私大その他関係機関を含む多様なステークホルダーが研究基盤を議論する新たな協議の場。

- 研究基盤に関する全国ネットワークの構築
- 研究基盤EXPOの開催
- 文部科学省や内閣府への議論への貢献

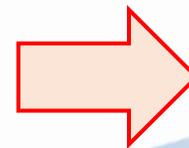
など、実績を積む。



文部科学省研究開発基盤部会（第17回）配布資料より
https://www.mext.go.jp/content/20230131-mxt_kibanen01-000027480_1.pdf

一般社団法人 研究基盤協議会 設立 （令和5年1月31日）

研究基盤に関する知見を大学・研究機関・産業界・官庁など、我が国全体で蓄積・共有・展開することにより、自立したサステナブルな研究基盤エコシステム構築への貢献を目的とした活動を行う。



本協議会が取り組む内容

- グローバル（グローバル）に活躍できる「研究基盤を最大限生かせる人財」の育成と社会への輩出
- 我が国の研究基盤に関するエビデンスを国と協力しながら調査・研究し共有できるデータプラットフォームの構築

研究環境改革を推進する産官学の連携をさらに強化するためのハブとして機能し、オールジャパンの体制作りと世界や地域をつなぐ場としての機能を果たしていく

具体的な活動

1. 会員相互の交流及び連携の促進
2. 研究設備・機器共用化を促進するための情報発信
3. 技術職員を対象とした研修
4. 研究設備・機器共有に関するコンサルティング
5. 受託調査及び研究
6. 研究環境整備に関する政策提言



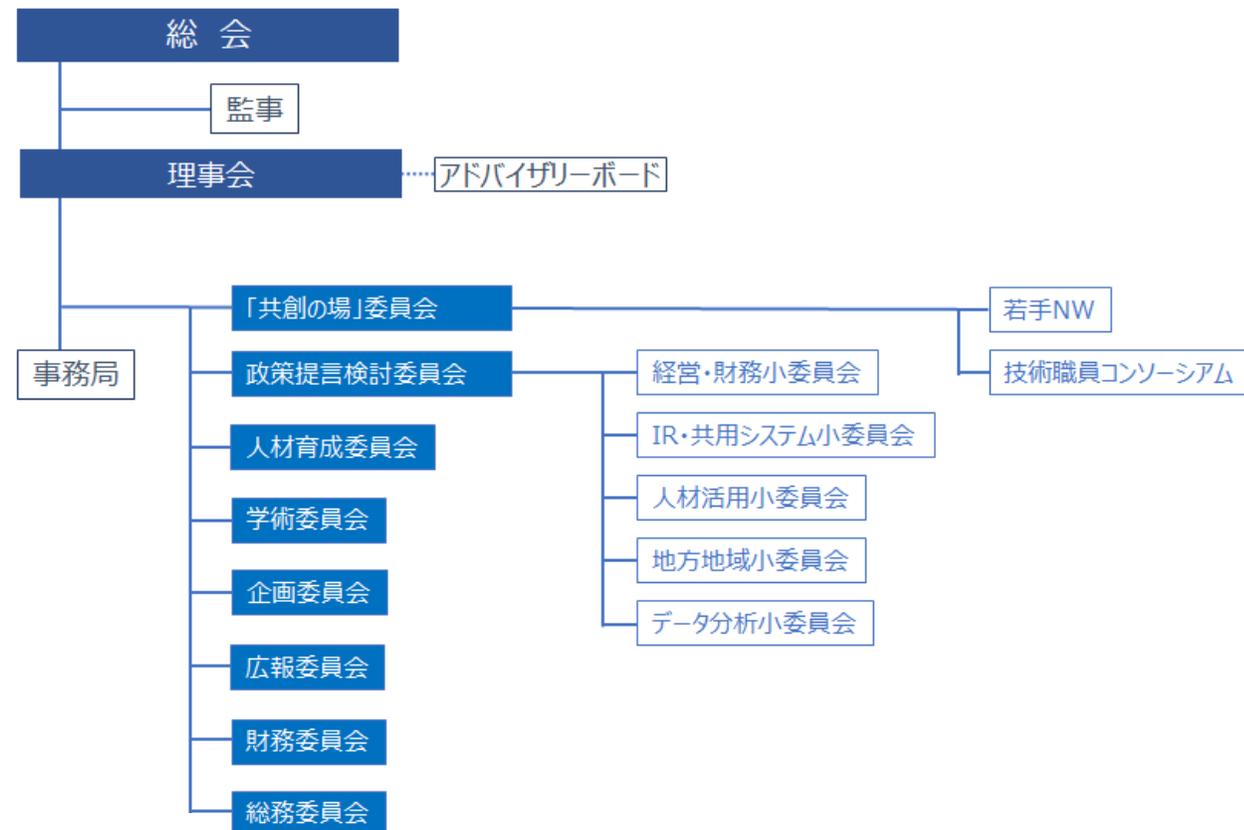
会員構成と実勢（令和7年1月20日現在）

会員種別・団体数	登録人数
【団体正会員】 27団体（種別・地域順）	指定代表者・団体内会員
【国立大学法人】 北海道大学、東北大学、群馬大学、筑波大学、東京科学大学、東京農工大学、信州大学、新潟大学、長岡技術科学大学、金沢大学、東海国立大学機構、名古屋工業大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、鳥取大学、山口大学、高知大学、千葉大学、九州工業大学、宮崎大学、琉球大学 【公立大学法人】 名古屋市立大学、大阪公立大学 【学校法人】 早稲田大学、東海大学、沖縄科学技術大学院大学	221名
【特別賛助会員】 3団体（申請順）	指定代表者・連絡担当者
株式会社島津製作所、日本電子株式会社、株式会社日立ハイテク	6名
【準会員】 ※個人の所属団体名。正会員加入済団体を除く。	
【国立大学法人】 宇都宮大学、埼玉大学、東京大学、東京海洋大学、富山大学、山梨大学、静岡大学、浜松医科大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、神戸大学、徳島大学、香川大学、九州大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学 【学校法人】 慶應義塾大学、藤田医科大学 【その他】 科学技術振興機構、高エネルギー加速器研究機構、旭化成株式会社、Beyond Next Ventures株式会社	52名

役員と組織構成（令和6年10月22日現在）

役職	氏名 (所属機関)	担当
代表理事・会長	江端 新吾 (東京科学大学)	「共創の場」委員会
理事・副会長	植草 茂樹 (東京科学大学)	広報委員会
理事・副会長	岡 征子 (北海道大学)	企画委員会
理事・副会長	長谷川 浩 (金沢大学)	政策提言検討委員会
理事・事務局長	梶 飛雄真 (千葉大学)	事務局
理事・特別会長補佐	林 史夫 (群馬大学)	総務委員会
理事	荒砂 茜 (東海大学)	
理事	境 健太郎 (宮崎大学)	財務委員会
理事	佐々木 隆太 (北海道大学)	学術委員会
理事	渡邊 政典 (山口大学)	人材育成委員会
監事	佐柳 融 (東京農業大学)	

理事10名、監事1名



委員会の活動

「共創の場」委員会

技術職員コンソーシアム (TAMARIBA)

全国の大学技術職員が集い“研究基盤”の戦略的活用と共用促進に貢献

若手ネットワーク

多様な若手ステークホルダーが“現場の声”を政策立案の場に届ける

これら二つの共創の場の自主的な運営をサポートしています。

人材育成委員会

研究支援人材（技術職員）育成事業を通じて、

- ①研究基盤を最大限生かせる人財の育成
- ②研究支援人材の質の保証
- ③技術職員の活躍促進を目的とした活動

を行う委員会です。

政策提言検討委員会

大学や研究機関における共用研究設備・機器やその他の研究リソースの運用・運営について、文部科学省「研究設備・機器の共用推進に向けたガイドライン（共用ガイドライン）」の趣旨を踏まえつつ、経営・財務、IR・共用システム、人材活用、地方・地域、データ分析の観点から広くボトムアップで議論・検討し、研究基盤の未来像を政策提言します。

学術委員会

学術研究領域として新たに研究基盤における領域を形成し、学術交流の推進とネットワーク拡大を行ってまいります。また受託・共同での調査研究も実施します。

企画委員会

研究基盤EXPOの企画・立案・運営

このブロックには、研究基盤EXPO 2024の企画・立案・運営に関する複数のポスターが掲載されています。ポスターには「チーム共有による技術職員組織構築の過去・現在・未来」、「オープンファシリティセンター TCカレッジシンポジウム」、「先端研究基盤共用促進事業シンポジウム」、「シンポジウム「私立大学の戦略的コアシティ2024」」、「地域に貢献する研究基盤とは」、「一般社団法人研究基盤協議会 共創の場 企画セッション」などのイベントが紹介されています。各ポスターには開催日時、会場、参加費などの詳細情報が記載されています。

広報委員会

- HPの管理運用
- メールマガジン
- 広報冊子（ニュースレター）の作成配信

このブロックには、研究基盤協議会の広報活動に関する情報が掲載されています。上部には「研究基盤最前線 Vol.1」の表紙が示されています。下部には「一般社団法人の立ち上げから現在まで」の文章があり、協議会の設立経緯や活動内容が紹介されています。また、「江端会長からのメッセージ」の欄があり、江端会長のコメントが掲載されています。最下部には江端会長の写真が掲載されています。

令和5年度の主な事業（抜粋）

共創の場イベント

- ・ TAMARIBA企画の研究会およびワークショップを実施（他機関と共同開催）。
- ・ 若手ネットワーク企画として、「若手による研究基盤の実地調査」を実施。

政策提言

各小委員会での議論に基づき、

- 1) エビデンスに基づいた研究基盤マネジメント(EBRIM)の確立
- 2) 技術職員のキャリアパス構築と流動性システムの制度化
- 3) 研究力強化に資する研究支援者の高粒度データ取得
- 4) 地方・地域大学に求められる研究基盤整備と実情に見合った評価指標の確立についての提言を作成・公表。

研究基盤EXPO2024

- ・ 1月22日～26日に対面／オンラインで開催。延べ参加者2300人（対面300人、オンライン2000人）。

持続可能で強靱な社会の実現は研究基盤から！
研究環境改革をオールジャパンで推進する機能強化ハブとして
皆様と共に議論を展開する1週間

研究基盤EXPO2024

日程 2024年1月22日(月)～2024年1月26日(金)

参加申込 2023年12月1日～2024年1月19日 ※お申し込みは公式サイト内のご案内を参照ください
https://www.jcore2024.jp/activities/expo2024/



- 2024年
1月22日(月)
13:15 オープニング 対面参加 オンライン参加
- 13:30-16:30 シンポジウム「チーム共有による技術職員組織構築の過去・現在・未来」
(主催：岡山大学、共催：CORE、東京工業大学、山口大学、筑波大学) 対面参加 オンライン参加
- 1月23日(火)
10:00-12:00 TCカレッジシンポジウム～TC取得者の活躍と出口戦略の展望～ オンライン参加
- 13:30-18:00 令和5年度 先端研究基盤共用促進事業シンポジウム オンライン参加
- 1月24日(水)
10:00-12:05 シンポジウム「私立大学の戦略的コアファシリティ2024」
～私立大学が整備する多様なコアファシリティの役割と意義、最官との連携～
(主催：早稲田大学、共催：東京理科大学、東海大学、JAIMA、CORE) オンライン参加
- 1月25日(木)
10:00-17:00 第3回研究基盤協議会シンポジウム 対面参加 オンライン参加
- 1月26日(金)
13:30-15:00 技術職員が見える、技術力を魅せる
～技術人材活用戦略「技術スキル見える化」を考える～ 対面参加 オンライン参加
- 15:10-16:40 ONE TEAM 若手が考える研究支援体制 対面参加 オンライン参加
- 16:40- クロージング 対面参加 オンライン参加

主催 一般社団法人研究基盤協議会 (CORE) 【お問合せ】 研究基盤EXPO2024実行委員会
共催 文部科学省 expo2024@core2023.jp
協力 株式会社島津製作所、日本電子株式会社、株式会社日立ハイテク
後援 一般社団法人日本分析機器工業会 (JAIMA)

ver2023.12.23

学術研究と受託調査

- ・ 文部科学省SciREX 事業共進化実現プログラム（第Ⅲフェーズ）「研究支援の基盤構築（研究設備・人材等）のための調査・分析」プロジェクト（隅蔵PJ）に参画。アンケート、インタビュー等の調査と分析を実施。
- ・ 文部科学省の「大学及び大学共同利用機関の研究力強化に必要な課題及び対策に関する調査業務」（受託機関：未来工学研究所）に参画。中規模研究設備に関する全国の大学へのアンケート調査等を実施。



ラウンドテーブル

- ・ 団体正会員と協議会理事との個別懇談、協議（対面またはオンライン）。
- ・ 令和6年1～3月に15団体で実施。

https://www.jcore2023.jp/



HOME 概要 研究基盤協議会の取り組み 研究基盤EXPO 会員情報 入会のご案内 お知らせ アーカイブ

入会案内

READ MORE

一般社団法人
研究基盤協議会のご案内
Council of Research Infrastructures and Research Environment

Information

CORE 会員より その他 一覧を見る

2024年12月9日 イベント, お知らせ 会員より
総合技術研究会2025筑波大学 開催のご案内

2024年12月2日 イベント, お知らせ CORE
研究基盤EXPO2025情報② 参加登録申し込み開始！

2024年11月15日 お知らせ 審議会等
技術職員の人事制度等に関するガイドライン構成（案）が公開されました

—賛助会員—

 SHIMADZU
Excellence in Science

 JEOL

 HITACHI



第4回研究基盤協議会シンポジウム

第一部 研究基盤協議会 報告

活動報告

- 報告1 「地域・地方を巡る研究基盤」
長谷川 浩 理事・政策提言検討委員会 委員長
- 報告2 「これからの研究基盤と技術人材に求められることは」
佐々木 隆太 理事・学術委員会 委員長
- 報告3 「戦略的設備整備・運用計画（設備マスタープラン）の事例分析」
植草 茂樹 理事・副会長
江端 新吾 代表理事・会長

特別賛助会員 企業プレゼンテーション～最新技術情報と研究基盤戦略～

- 「自動化ソリューションの最新技術～フロー合成とバッチ合成におけるリアルタイム反応モニタリング～」
田邊 彩乃 株式会社島津製作所 分析計測事業部